

Osaka Directory

おおさか
ディレクトリ

supported by
RICHARD MILLE

小松 千倫 Kazumichi Komatsu

第7期 2024年11月16日(土)～12月15日(日)



1992年、高知県生まれ、京都府在住。音楽家、美術家、DJ。2022年、京都市立芸術大学大学院美術研究科メディア・アート専攻博士後期課程修了。音楽家としてこれまでに多くのレーベルから音源をリリースしており、その活動は国内外にわたる。音楽だけでなく、美術やインスタレーション、光や音を用いて身体の痕跡や記憶、伝承についても研究を行っており、2023年に東京で開催した個展「Sucker」では、会期中日程ごとに異なるサウンドが再生されるというユニークな体験を提供し、話題となった。

若手アーティストが育つ魅力ある大阪に

「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」は、関西・大阪21世紀協会と大阪中之島美術館が、関西ゆかりの若手アーティストの発掘・育成を目的に、大阪中之島美術館で開催している個展形式の展覧会。毎年3名を選出し、1名ずつ3期にわたって紹介することにより、彼らの才能を広く発信している。

今年で開催3年目を迎え、新進気鋭のアーティストの活躍を一目見ようと会場となる2階多目的スペースを訪れる人々も年々増加するほど着実に成果をあげてきた。

今年度、選ばれたのは小松千倫さん、谷中佑輔さん、KOURYOUさんの3名。11月16日(土)からトップバッターを務める小松千倫さんは、音楽家、美術家、DJという多彩な顔を持つ。今回、小松さんの創作プロセスやインスピレーションの源、そして本展にかける意気込みを聞き、音楽とアートが交差するその独自の世界観に迫ってみた。

音楽とアートとの出会い

小松さんは音楽や映像、光などさまざまな表現方法を組み合わせた作品を手掛けている。「自分にとって音楽とアートは切り離せないもの」と語る小松さんだが、音楽とアート、それぞれの鑑賞者は全く異なり、その違いに関心があると話す。「音楽は大衆向けで、美術は美術館やギャラリーなど、興味がある人や専門家に向けたものだとされる場合が多い。そのため音楽のパフォーマンスを行う場所と、美術をめぐる空間は全く違います。僕はその違いを楽しんだり、繋ごうと試みたりしていますが、重要なのは、変に両者を繋ごうとしないこと、繋いだ気にならないことだと思います」。

Osaka Directoryでの展示について

今回、小松さんにとって大阪での初の個展となる。大阪中之島美術館のある中之島の歴史や具体美術協会[※]への興味から、1970年の大阪万博のパビリオン『繊維館』をテーマにしているという。

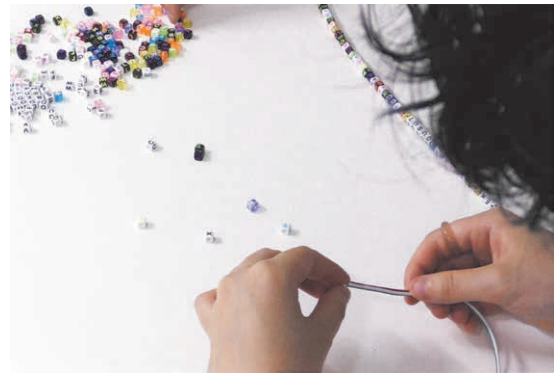
「繊維館は、当時の先端的な表現者が集い、映像や音楽を使った大規模なインスタレーションが行われましたが、来場者はその前衛的な表現を作者の意図通りに鑑賞せず、床に座ったり寝そべったり、休憩所のように使

われてしまったそうです。最近、繊維館の音楽を手がけた湯浅譲二の現代音楽を聴き、その尖った表現と一般の人々の期待との乖離に興味を持ちました。こうした先端的で専門性の高いものに対する大衆の反応や、文脈に関係なくツッコミが入る感じに関心があります」と語る。アーティストが作品に込めたメッセージが、観客によって全く別の解釈をされる。このようなギャップが面白いといい、予期しない視点やアイデアが、作品に新たな価値を与えることを小松さんは楽しんでいる。

「展示では、繊維館の状況をただ再現するのではなく、そこから広く大阪らしさを考え、自分の問題意識の中で鑑賞体験の一つの在り方として提示したい。勝手に鑑賞をはじめ勝手に終わる。自由気ままなだらだらした感じ。主導権は鑑賞者であって、広い意味で僕を感じる大阪の街の雰囲気や醸し出すものになればと思います。社会学者の岸政彦や詩人の以倉紘平が著作の中で大阪の川について書いているのですが、それらを読んでいくなかで「水路の最果てみたいところ」のようなイメージを持ちました。そういう感じを出していきたいです」と語る。古より大阪は多様な文化や人々が集まる終着点であり、さまざまなものが交錯する場所。物事を自分の判断で進める自由さ、「商人のまち大阪」の気風を小松さんはどう表現するのか楽しみだ。



《光年》
パフォーマンス、
2024年



作品制作中の様子



《Sucker》2023年
撮影：竹久直樹

また、ガラス張りで誰もが行きかう今回の展示場所については「美術館の外からも見られることもポイント。お客さんには展示空間を自由に使ってほしいですが、同時に、お客さんが作品の一部となり、外部から見られることもある。そのスリリングな体験も楽しんでほしい」と笑う。鑑賞者もまた作品の一部となるのだ。

「展覧会の会期中には、会場で古着のバザーや音楽ライブ、パフォーマンスなど、様々なイベントを開催する予定です。自分一人でなく、誰かと一緒に行くなどオーガナイズして、この場所を『鑑賞』に限らず、使われる空間にしたい」と話す。

小松さんにとって芸術の力について尋ねると、「芸術の個々の表現は、それぞれ独自の形やスタイルを持っていて、言葉だけでは表現しきれない感情や経験、社会の状況を記録し、伝える能力を持っています」。文字を持たない文化圏でも、創作物を通じて高度な知識や伝統が

蓄積され、日々の生活の中で传承されていく。小松さんは自身のことを「その伝統や知識の传承者として、その役割を果たしたい」と語る。

現代アートは難解だといわれるが、私たちの心の奥深くにある感情や経験を引き出し、言葉では表現しきれないメッセージを伝える力を持っている。ぜひ、自由な心で現代アートに触れ、自身の感じるままにその魅力を存分に味わっていただきたい。

※具体美術協会（具体）…1954年に兵庫県芦屋で結成された美術家集団。本拠地が中之島にあり、画家の吉原治良を中心に、「精神の自由」を具体的に提示しようとした。18年間の活動は国内外で注目され、戦後日本美術の原点として神話化されている。大阪中之島美術館は、具体美術協会の展示「大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画 すべて未知の世界へ - GUTAI 分化と統合」を2022年10月22日から2023年1月9日まで開催した。

■「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」開催予告

第8期

谷中 佑輔

会期

2024年12月21日（土）～
2025年1月19日（日）

《Pulp Physique #8》2022年
撮影：大塚敬太＋稲口俊太



第9期

KOURYOU

会期

2025年1月25日（土）～
2月24日（月・休）



《KNOT》2023年 ユアサエボシ蔵

【会場】大阪中之島美術館 2階 多目的スペース

【主催】大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

【supported by】RICHARD MILLE

【協賛】サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社、西尾レントオール株式会社